

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	医療通訳基礎Ⅱ		（TCM123）
講義名（コード）	TCM_医療通訳基礎Ⅱ		（TCM123）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	日中医療通訳コース	単位数	4
授業担当者	伊東かつみ	時間数	60
成績評価教員	伊東かつみ	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	医療従事者として現場で即戦力となる確かな知識と技術を持ち、異文化に対する理解と医療の倫理観を備え、通訳者としての最低限の言語力とコミュニケーション力を身につけた人材になる。
全体の内容と概要	前期では主にテキストの内容の理解と逐次通訳2段階に分ける。●以下の基礎能力については毎回授業のはじめにクイズやロープレで練習①発音；初回でなまりの原因や、克服方法の基礎を学び、単語クイズ、発表など自己矯正させる。 ②ヒヤリング；毎日で聞き取りのクイズをして、自己能力の自己分析をする。単語からはじめ、日本の漢字の想起、カタカナ、短文、後期はテキストにあるような複文まで、できない場合は宿題を出し、提出させる●記憶の訓練については逐次通訳に入ってから、時間をとって練習した後、毎回授業で練習15分練習。到達レベルは15秒前後の内容は1度聞いてほぼ100%、30秒前後の内容は2度聞いて80%ぐらい記憶できる。●逐次通訳では、シャドーイングを3回に分けてゆっくり練習する。ノートテイクは1回の授業で練習。その他中国人の弱点項目；◎そこ、あそここの区別、◎形容詞とな形容詞の区別、◎動詞の名詞化、◎尊敬語と謙譲語のやりもらい、◎自己動詞と助詞の関係、◎使役；させるとその敬語の表現、◎誤解されるような表現 については時間をとって練習する。
授業時間外の学修	宿題で出したペア練習、グループ討論などは授業以外に、学生同士で連絡、練習し、授業で発表できるように準備する。
履修上の注意事項等	授業中のゲームやクイズは真剣に取り組むこと。授業中の発表等で得たグループの得点から割り出した個人の点数は、チームワーク、主体性、表現力として平常点10%とする。発言、質問、宿題提出など授業中に獲得した個人の点数は出席日数に加味して、日常成績30%とするので、間違いを恐れず、積極的に発言すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	【 発言、積極性 + (期末試験点) 期末テストの点数が 90 点未満の場合 授業中に獲得した個人の合計の上位 10 位までの 1 点から 10 点を加算する。11 位以下と 90 点以上の学生には加算されない	【自己管理能力 (①出席率、②宿題提出率、③1 回の授業で一回以上挙手して発言した率) ÷ 3 の 30% 】	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% 【グループ獲得合計によって 100 点 , 80 点、50 点の 3 段階に分かれる。グループに所属している学生はその点数 × 0.1 を獲得する】
評価方法	期末試験の点数 + 上位のランクの得点 (1 点 ~ 10 点) × 0.6	(① + ② + ③) ÷ 3 × 0.3 (小数点以下は四捨五入)	得点 × 0.1
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90 ~ 100 点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80 ~ 89 点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70 ~ 79 点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60 ~ 69 点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59 点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1 4. 20	①発音の原則の完全な理解と正しい拍数で手を叩けるようになること。②日本語の漢字の読み方の理解	●導入、授業形式の説明、●各自のテキストの音読によるなまりと理解度把握 ①中国人の発音の弱点と練習法を理解する②漢字の読み方の原則の理解③日本と中国の習慣の相違
2 4.27	1－1 通訳理論 ●スキミングの仕方の理解●文の分解	日本の職場で日本語を使ったコミュニケーション●通訳する前の基礎知識の理解。何を基本とすべきか●スキミングの仕方の理解●文の分解、キーワード ◎そこ、ここ、あそこ 例を考えグループで発表 ◎イ形容詞とナ形容詞の変換区別を確認し、練習する。
3 5.11	1-2 対話通訳と対話作用1－3質の高いサービス1-4. 医療通訳者の役割	①ラボールの構築、医師と患者の良好な関係の構築②患者から必要な情報を聞きだす③患者への説明、患者教育 医療通訳者の役割④情報に関する権利②「自己決定の権利」 ●日本のジェスチャー◎動詞の名詞化；痛い→痛み◎敬語の基礎；尊敬語と謙譲語のやりちらい、～してあげる→～致します
4 5.18	【課題学習】 2. 通訳に必要な通訳技術 2-1. 母語と第二言語の習得	●自身のレベルを判定する●目標学習の理解 どうやって差を縮めるか。6w 2 h
5 5.25	4) 日本における医療通訳の歴史(5) 日本の医療通訳の現状(6) 専門職の確立に向けて	●スキミングの練習●文の聞き取り ◎文法上の弱点、使役の使用法させるの使い方
6 6.1	2-2. 通訳に必要な通訳技術 (2) 訓練の前提となる基礎的な能力 相手国に対する理解 2-3. 逐次通訳とは 逐次通訳のプロセス	●日本のタブー●日本語のタブー◎文法的弱点の理解；① 自動詞、他動詞の理解 ②助詞の使用法；が＋自動詞、を＋他動詞
7 6.8	逐次通訳 1 2-4. 逐次通訳の前提となる能力強化 逐次通訳演習①シャドーイング ●プロソディを身につける	逐次通訳の理解と練習、日本語の音→漢字の連想。 識記、保持、回憶（再认） (1) 逐次通訳に必要な能力1,理解力（発言を聞きとり、理解することができる） ★シャドーイングの練習、トランスクリプション（書き取り） ペアで答え合わせの後 グループで結果を討論
8 6.15	課題の提出	聞き取りの録音提出及び課題の提出
9 6.22	逐次通訳演習 2 ②トランスクリプション 聴き取り	●聞き取れない単語の推測 5 w 2 h を使って分析●全体の意味の理解 ①理解、②記憶する ③ノートのとり方
10 6.29	逐次通訳演習 3 ③ラギング ④リテンション、リプロダクション	★トランスクリプション プロセスを書き取る。文法の理解があいまいだった、聞いたことを忘れてしまったなど ノートに書き、統計を取る。グループで討論
11 7.6	逐次通訳演習 4 ⑤パラフレーズ ⑥クイックレスポンス 3－1. 医療倫理 3－2. 患者の権利 3－3. 医療通訳者の行動規範	★短期的な記憶力を強化する。 ★ラギング ★リテンション・リプロダクション★パラフレーズ★クイックレスポンス 一通りの流れとやり方を理解 ペアで練習、グループで討論
12 7.13	逐次通訳演習 5 2-5. ノートテイキングの理論と練習 2-6 逐次通訳の学習用例文、2－7 情報の収集方法	ノートテイキングの理論と練習 ●ロザン7つの原則 原則1「構造明示」：空間配置で構造を明示する ●原則2「省力化」：記号や略語を利用する。良い方法をグループで討論後発表 情報収集の方法；グループで発表 (インフォームド・コンセント) 1基本的人権の尊重 2. 守秘義務 3. 忠実性と正確性 4. 中立・公平 5. 役割の境界を明確にする 6. プライバシーへの配慮 7. 異文化理解と文化仲介 8. 権利擁護（アドボカシー）
13 7.20	倫理的問題 倫理演習④ 倫理演習⑤ テスト練習及び弱点の強化	●倫理的問題についてグループで討論する。その様子を録画し、自己評価し、発表。全員で評価。 ・倫理の原則から、答えを発表し、自身の葛藤などの感想を共有する。 発表の中で発音、敬語、自他動詞、助詞の使い方について評価する。練習不足、頻度の高い間違い等の解説、練習をする。事前に提出された質問に回答する。 ●テストの練習
14 7.27	テスト	ペーパーテスト；①体の部分②病気の名前と症状③法律、現状④テキストの内容；言葉の説明 ⑤中国語の翻訳、⑥日本語の翻訳 リスニング；①医師の説明を通訳する ②患者の発話通訳③医療表現の聞き取り ④医師に患者の要求を伝える⑤倫理に関する問いへの答え
15 8.3	テストの解説	ペーパーテスト；●間違えやすいところの復習。●翻訳の典型的間違い⇒自然な表現 リスニング；●聞き取り；キーワード、話しの背景、相手のニーズ、文脈の理解と構築●翻訳話し方；単語の選択、話しの文脈の表現、話し方の効果。失敗の総括と他者の答え方の評価、今後の学習の方法をグループで発表。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医療通訳」一般財団法人 日本医療教育財団 著（厚生労働省配布）
参考文献・資料等	医療通訳学習テキスト
備考	